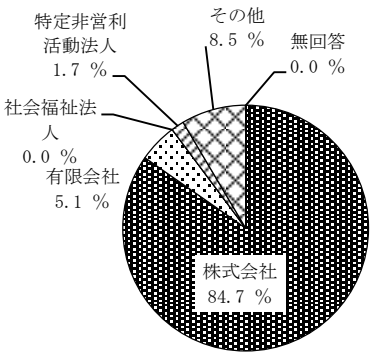
Ⅱ．住宅改修事業所のアンケート結果

1．事業所概要

（1） 法人種別（SA）

法人種別について、最も多いのは「株式会社（84.7%）」、次いで「有限会社」（5.1%）であった。

No	カテゴリ	n	%
1	株式会社	50	84.7
2	有限会社	3	5.1
3	社会福祉法人	－	－
4	特定非営利活動法人	1	1.7
5	その他	5	8.5
	無回答	－	－
	全体	59	100.0



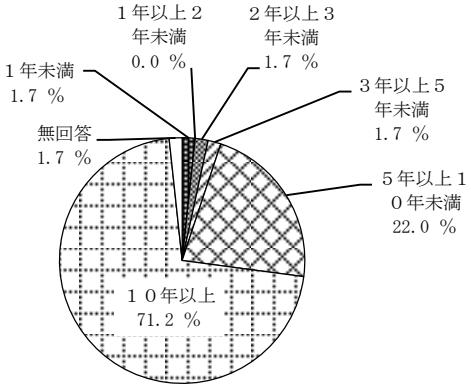
その他（自由記述）

・ 個人事業主 11 件

（2） 住宅改修事業の実施年数（平成 27 年1月末現在）（SA）

住宅改修事業の実施年数について、最も多いのは「10 年以上」（71.2%）」、次いで「5年以上10年未満」（22.0%）であった。

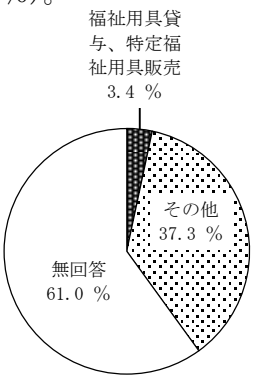
No	カテゴリ	n	%
1	1年未満	1	1.7
2	1年以上2年未満	－	－
3	2年以上3年未満	1	1.7
4	3年以上5年未満	1	1.7
5	5年以上10年未満	13	22.0
6	10年以上	42	71.2
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0



(3) 貴事業所の併設サービス(MA)

住宅改修事業所の併設サービスについて、最も多いのは「その他」(37.3%)。

No	カテゴリ	n	%
1	福祉用具貸与、特定福祉用具販売	2	3.4
2	その他	22	37.3
	無回答	36	61.0
	全体	59	100.0



その他(自由記述)

- 住宅改修 21 件
- 住宅改修、新築工事、改築等 5 件
- 一般建築 4 件
- 建設業 3 件
- 介護保険の住宅改修リフォーム 1 件

(4) 貴事業所の従業員数(平成 27 年 1 月末現在:実数)

従業員数の平均は 14.5 人、そのうち「建築士」は平均 2.7 人、「福祉住環境コーディネーター」は 0.6 人、「増改築相談員」は 1.5 人であった。

従業員数

合計	797
平均	14.5
分散(n-1)	344.14
標準偏差	18.55
最大値	110
最小値	1
無回答	4
全体	59

うち建築士

合計	159
平均	2.7
分散(n-1)	8.54
標準偏差	2.92
最大値	12
最小値	0
無回答	1
全体	59

うち福祉住環境ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

合計	32
平均	0.6
分散(n-1)	0.97
標準偏差	0.99
最大値	5
最小値	0
無回答	1
全体	59

うち増改築相談員

合計	88
平均	1.5
分散(n-1)	3.56
標準偏差	1.89
最大値	9
最小値	0
無回答	1
全体	59

(5) 貴事業所の住宅改修サービスの平成 25 年度 1 年間の利用者数(実数)

1 事業所当たりにおける 1 年間の住宅改修サービス利用者の実人数は平均 28.5 人、延人数は平均 111.1 人であった。

利用者(実人数)

合計	1,339
平均	28.5
分散(n-1)	4,986.93
標準偏差	70.62
最大値	300
最小値	0
無回答	12
全体	59

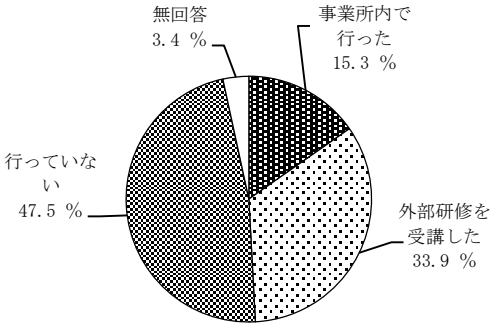
利用者(述人数)

合計	4,334
平均	111.1
分散(n-1)	83,285.24
標準偏差	288.59
最大値	1,500
最小値	0
無回答	20
全体	59

(6) 平成 24 年度以降の住宅改修に関する研修実施の有無(SA)

住宅改修に関する研修実施状況について、半数弱(47.5%)の事業所が研修は行っておらず、「外部研修を受講した」事業所は 33.9%、「事業所内で行った」事業所は 15.3%であった。

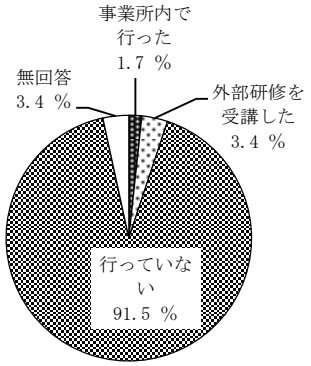
No	カテゴリ	n	%
1	事業所内で行った	9	15.3
2	外部研修を受講した	20	33.9
3	行っていない	28	47.5
	無回答	2	3.4
	全体	59	100.0



(7) 平成 24 年度以降の福祉用具貸与・販売に関する研修実施の有無(SA)

福祉用具貸与・販売に関する研修実施状況について、約 9 割(91.5%)の事業所が研修は行っておらず、「外部研修を受講した」事業所は、3.4%、「事業所内で行った」事業所は 1.7%であった。

No	カテゴリ	n	%
1	事業所内で行った	1	1.7
2	外部研修を受講した	2	3.4
3	行っていない	54	91.5
	無回答	2	3.4
	全体	59	100.0

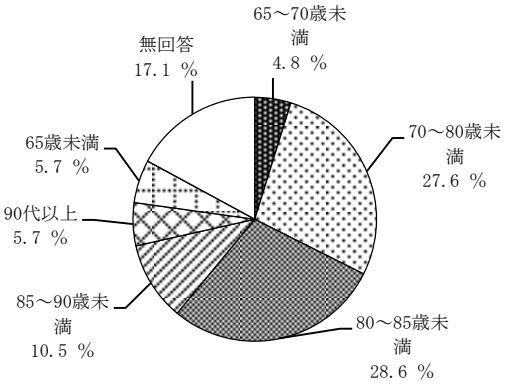


2. 本事例の対象者について伺います。住宅改修導入直前における状況で記載してください。

(1) 年齢(実数)

事例対象者の年齢について、最も多いのは「80～85 歳未満」(28.6%)、次いで「70～80 歳未満」(27.6%)、「85～90 歳未満」(10.5%)であった。

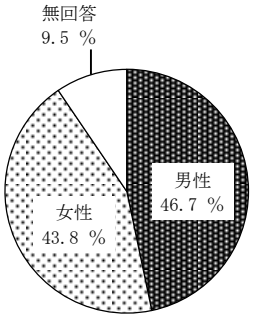
No	カテゴリ	n	%
1	65～70 歳未満	5	4.8
2	70～80 歳未満	29	27.6
3	80～85 歳未満	30	28.6
4	85～90 歳未満	11	10.5
5	90 代以上	6	5.7
6	65 歳未満	6	5.7
	無回答	18	17.1
	全体	105	100.0



(2) 性別(SA)

性別は、「男性」(46.7%)、「女性」(43.8%)であった。

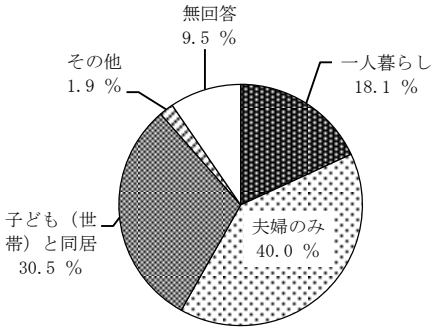
No	カテゴリ	n	%
1	男性	49	46.7
2	女性	46	43.8
	無回答	10	9.5
	全体	105	100.0



(3) 世帯構成(SA)

世帯構成について、最も多いのは「夫婦のみ」(40.0%)、次いで「子ども(世帯)と同居」(30.5%)、「一人暮らし」(18.1%)であった。

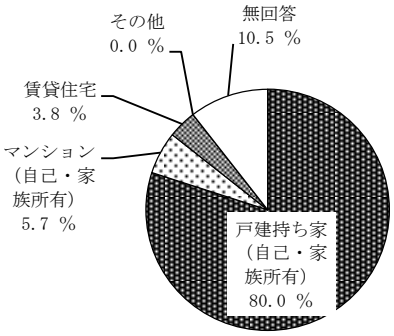
No	カテゴリ	n	%
1	一人暮らし	19	18.1
2	夫婦のみ	42	40.0
3	子ども(世帯)と同居	32	30.5
4	その他	2	1.9
	無回答	10	9.5
	全体	105	100.0



（4） 居住環境（SA）

居住環境について、最も多いのは「戸建持ち家（自己・家族所有）」（80.0%）、次いで「マンション（自己・家族所有）」（5.7%）、「賃貸住宅」（3.8%）であった。

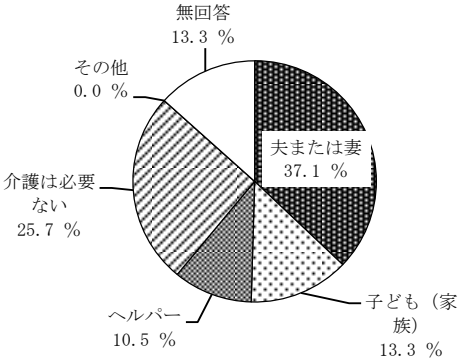
No	カテゴリ	n	%
1	戸建持ち家（自己・家族所有）	84	80.0
2	マンション（自己・家族所有）	6	5.7
3	賃貸住宅	4	3.8
4	その他	–	–
	無回答	11	10.5
	全体	105	100.0



（5） 主な介護者（SA）

主な介護者について、最も多いのは「夫または妻」（37.1%）、次いで「介護は必要ない」25.7%、「子ども（家族）」（13.3%）、「ヘルパー」（10.5%）であった。

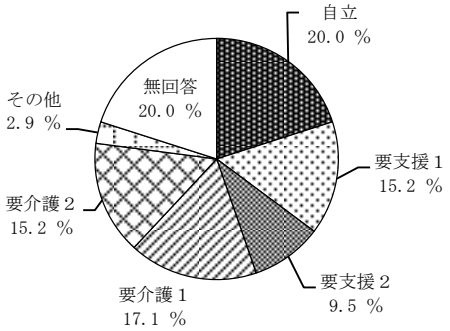
No	カテゴリ	n	%
1	夫または妻	39	37.1
2	子ども（家族）	14	13.3
3	ヘルパー	11	10.5
4	介護は必要ない	27	25.7
5	その他	–	–
	無回答	14	13.3
	全体	105	100.0



（6） 要介護度（SA）

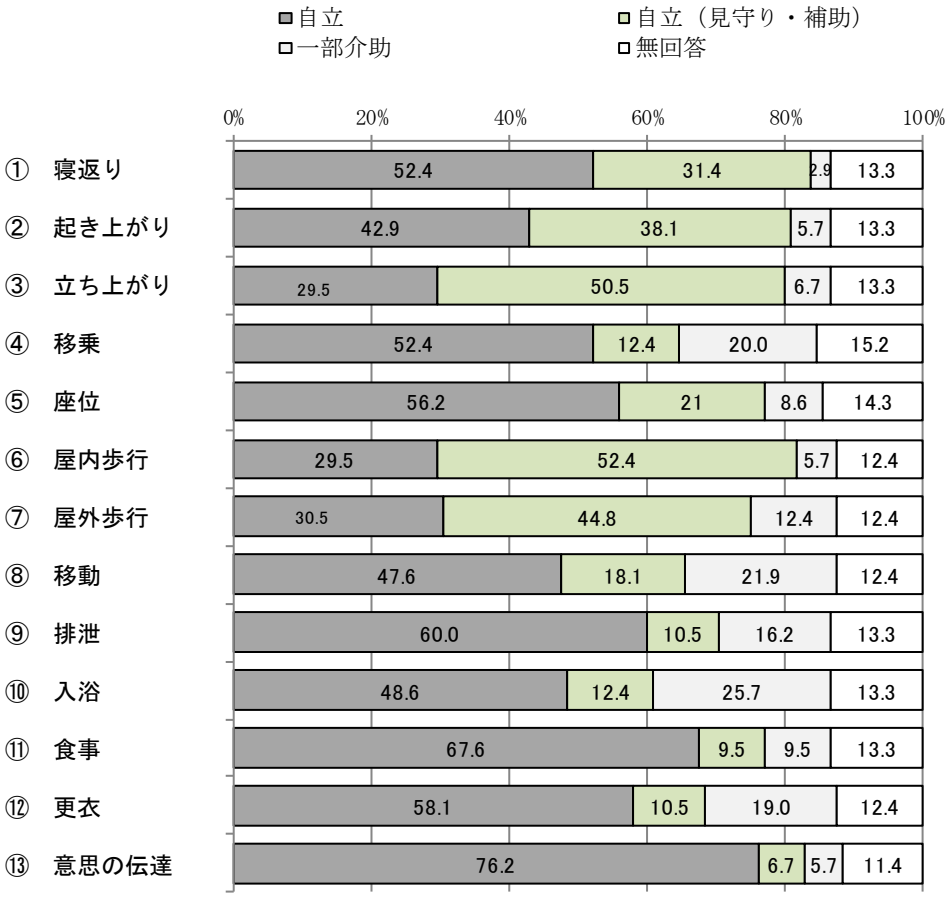
要介護度について、最も多いのは「自立」（20.0%）、次いで「要介護 1」（17.1%）、「要支援 1」（15.2%）であった。「その他」には、「要介護 4」が 2 件あった。

No	カテゴリ	n	%
1	自立	21	20.0
2	要支援1	16	15.2
3	要支援2	10	9.5
4	要介護1	18	17.1
5	要介護2	16	15.2
6	その他	3	2.9
	無回答	21	20.0
	全体	105	100.0



(7) 利用者の状態(SA)

利用者の生活動作について、「一部介助」の割合が最も高いのは「入浴」(25.7%)、次いで「移動」(21.9%)、「更衣」(19.0%)であった。「自立」の割合が最も高いのは「意志の伝達」(76.25%)、次いで「食事」(67.6%)、「排泄」60.0%であった。



① 寝返り

No	カテゴリ	n	%
1	つかまらないでできる	55	52.4
2	何かにつかまればできる	33	31.4
3	一部介助	3	2.9
	無回答	14	13.3
	全体	105	100.0

② 起き上がり

No	カテゴリ	n	%
1	つかまらないでできる	45	42.9
2	何かにつかまればできる	40	38.1
3	一部介助	6	5.7
	無回答	14	13.3
	全体	105	100.0

③ 立ち上がり

No	カテゴリ	n	%
1	つかまらないでできる	31	29.5
2	何かにつかまればできる	53	50.5
3	一部介助	7	6.7
	無回答	14	13.3
	全体	105	100.0

④ 移乗

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	55	52.4
2	見守り等	13	12.4
3	一部介助	21	20.0
	無回答	16	15.2
	全体	105	100.0

⑤ 座位

No	カテゴリ	n	%
1	できる	59	56.2
2	自分の手で支えればできる	22	21.0
3	支えてもらえればできる	9	8.6
	無回答	15	14.3
	全体	105	100.0

⑥ 屋内歩行

No	カテゴリ	n	%
1	つかまらないでできる	31	29.5
2	何かにつかまればできる	55	52.4
3	一部介助	6	5.7
	無回答	13	12.4
	全体	105	100.0

⑦ 屋外歩行

No	カテゴリ	n	%
1	できる	32	30.5
2	自分の手で支えればできる	47	44.8
3	支えてもらえればできる	13	12.4
	無回答	13	12.4
	全体	105	100.0

⑧ 移動(車いすの使用を含む)

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	50	47.6
2	見守り等	19	18.1
3	一部介助	23	21.9
	無回答	13	12.4
	全体	105	100.0

⑨ 排泄

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	63	60.0
2	見守り等	11	10.5
3	一部介助	17	16.2
	無回答	14	13.3
	全体	105	100.0

⑩ 入浴

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	51	48.6
2	見守り等	13	12.4
3	一部介助	27	25.7
	無回答	14	13.3
	全体	105	100.0

⑪ 食事

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	71	67.6
2	見守り等	10	9.5
3	一部介助	10	9.5
	無回答	14	13.3
	全体	105	100.0

⑫ 更衣

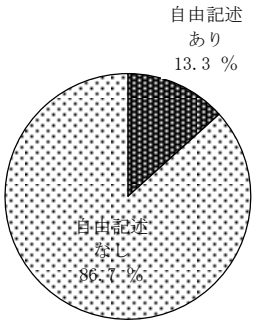
No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	61	58.1
2	見守り等	11	10.5
3	一部介助	20	19.0
	無回答	13	12.4
	全体	105	100.0

⑬ 意思の伝達

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	80	76.2
2	見守り等	7	6.7
3	一部介助	6	5.7
	無回答	12	11.4
	全体	105	100.0

⑭ 視覚・聴覚（自由記述）

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述　あり	14	13.3
2	自由記述　なし	91	86.7
	全体	105	100.0



「自由記述あり」

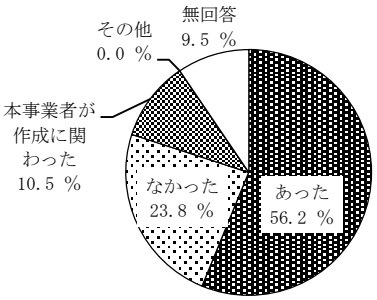
- 耳が遠い　4 件
- 補聴器を利用　2 件
- 日常生活に特に支障を来す程ではない　2 件
- 自立　1 件
- 目と耳が悪い　1 件

3. 住宅改修前のアセスメント、目標設定、住宅改修プランなどについて伺います。

(8) 「住宅改修が必要な理由書」を確認する機会はありましたか。(SA)

「住宅改修が必要な理由書」の確認機会について、最も多いのは「あった」(56.2%)、次いで「なかった」(23.8%)、「本事業所が作成に関わった」(10.5%)であった。

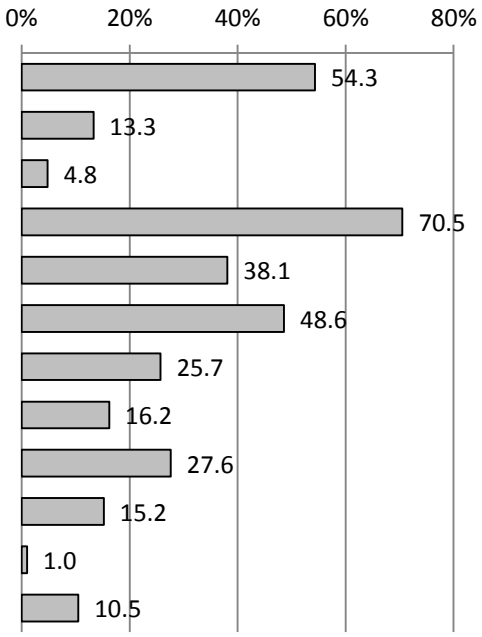
No	カテゴリ	n	%
1	あった	59	56.2
2	なかった	25	23.8
3	本事業者が作成に関わった	11	10.5
4	その他	−	−
	無回答	10	9.5
	全体	105	100.0



(9) 利用者本人・家族の要望について教えてください。(MA)

住宅改修前の利用者本人・家族の要望について、最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(70.5%)、次いで「自立した生活の維持」(54.3%)、「利用者の身体的負担の軽減」(48.6%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	自立した生活の維持	57	54.3
2	できなかったことをできるようにする	14	13.3
3	他の介護サービス利用の減少	5	4.8
4	転倒等の防止、安全の確保	74	70.5
5	動作の容易性の確保	40	38.1
6	利用者の身体的負担の軽減	51	48.6
7	利用者の精神的負担の軽減、不安の緩和	27	25.7
8	利用者の生活意欲の向上	17	16.2
9	介護者の身体的負担の軽減	29	27.6
10	介護者の精神的負担の軽減	16	15.2
11	その他	1	1.0
	無回答	11	10.5
	全体	105	100.0



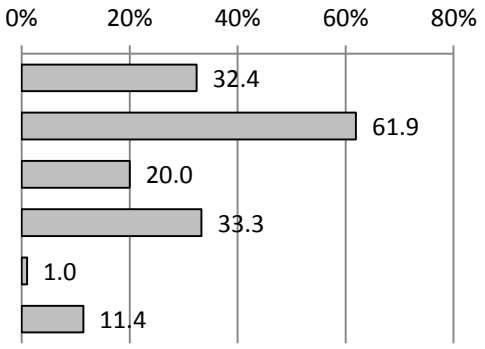
その他(自由記述)

・ バリアフリー 1件

（10） 住宅改修を検討する際に、特に留意したことはどのようなことですか。（MA）

住宅改修を検討する際に特に留意したことについて、最も多いのは「利用者・家族と面談して利用者の希望、心身の状況、及び住環境を調査」（61.9%）、次いで「専門的見地から利用者の状態像や意向等に適した福祉用具・住宅改修を選定」（33.3%）、「利用者の自立支援につながる目標設定」（32.4%）であった。

No	カテゴリ	n	%
1	利用者の自立支援につながる目標設定	34	32.4
2	利用者・家族と面談して利用者の希望、心身の状況、及び住環境を調査	65	61.9
3	ケアプランとの整合性の確保	21	20.0
4	専門的見地から利用者の状態像や意向等に適した福祉用具・住宅改修を選定	35	33.3
5	その他	1	1.0
	無回答	12	11.4
	全体	105	100.0



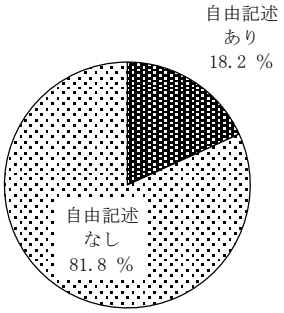
その他（自由記述）

・ できるだけ金銭負担も少なくする。 1 件

（11） 上記 10 で選択した項目を実施した結果、問題となった点、あるいは工夫した点があれば、具体的に記述してください。（自由記述）

（10） 1.利用者の自立支援につながる目標設定

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	2	18.2
2	自由記述 なし	9	81.8
	全体	11	100



問題となった点

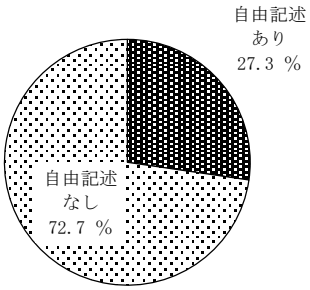
・ 利用者と非利用者に身長差がある場合い、共用として手摺等の使用が出来ないこと。

工夫した点

・ 手摺等の高さ、長さに関して利用者に合せて取付ける（何度も確認する。）

（10） 2.利用者・家族と面談して利用者の希望、心身の状況、及び住環境を調査

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述　あり	6	27.3
2	自由記述　なし	16	72.7
	全体	22	100



問題となった点

・　家族にとっては手摺スロープなど、邪魔になる。

工夫した点

・　家の中での事故がおきないための提案。

・　今の生活を大きく変化させることなく、室内の使い勝手を改善するよう提案した。

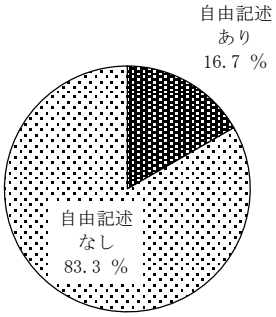
・　夫婦共に要支援を受けているので出来るだけお互いに負担にならない様に注意をした。

・　バリアフリー化の推進を希望、介護保険適用を重視。

・　段差の多い住居であったが、過度な手摺の取付はしなかった。自立のため。

（10） 3.ケアプランとの整合性の確保

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述　あり	1	16.7
2	自由記述　なし	5	83.3
	全体	6	100



問題となった点

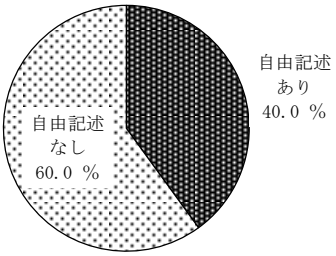
・　－

工夫した点

・　病院から退院後の自宅での生活で、本人及び家族の介護への負担軽減。安全性、快適性。

（10） 4.専門的見地から利用者の状態像や意向等に適した福祉用具・住宅改修を選定

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述　あり	4	40
2	自由記述　なし	6	60
	全体	10	100



問題となった点

・　－

工夫した点

・　ユニットバス設置で、以前の冷めたいタイルや風呂の小ささ、風呂内の温度、入口段差などを解消しました。

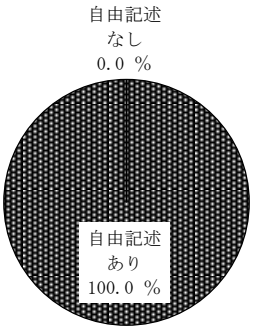
・　県営住宅のため、改造が安全に又は強固（確実）に施工出来る様工夫した。

・　ご本人の体格を考慮した取付位置　ex、手すり取付高さ、標準高によらない。

・　手スリの、位置（高さ等）。動作方法、利用者の方が、普段どのように生活されているかを、実際に行って、検証しました。介助者の方と利用者の方にお話しを、聞かせて頂いて、打合わせをし、検証をする事を、しました。

（10） 5.その他

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述　あり	1	100
2	自由記述　なし	－	－
	全体	1	100



問題となった点

・　－

工夫した点

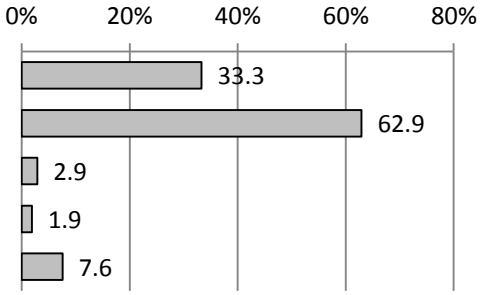
・　当社では高齢者の介護の改善に伴う工事の場合は極力御本人（入院中手続きを除き）、御家族、ケアマネージャーと顔合わせをして状況確認し、現場で皆様と意見を出し合って工事計画を検討しています。無理に工事を行わないようにし、福祉用具レンタルが適するような場合はそちらの方法も優先させて、極力コストを抑えられるよう計画しています。

(12) 住宅改修によって、改善しようとした高齢者の生活動作について教えてください。

(1)～(4)について該当する項目すべてに○をつけ、事例の具体的な動作の問題点について記載してください。(MA)

住宅改修によって改善しようとした高齢者の生活動作について、最も多いのは「入浴」(62.9%)、次いで「排泄」(33.3%)、「外出」(2.9%)であった。

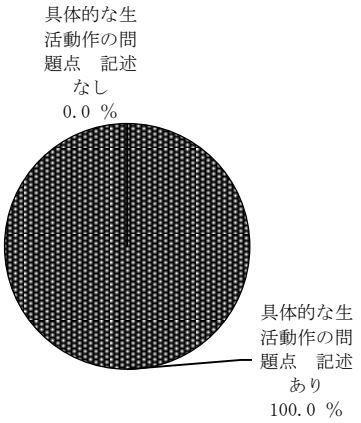
No	カテゴリ	n	%
1	排泄	35	33.3
2	入浴	66	62.9
3	外出	3	2.9
4	その他の活動	2	1.9
	無回答	8	7.6
	全体	105	100.0



住宅改修によって、改善しようとした高齢者の生活動作

(1) 排泄

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点　記述　あり	35	100.0
2	具体的な生活動作の問題点　記述　なし	－	－
	全体	35	100.0



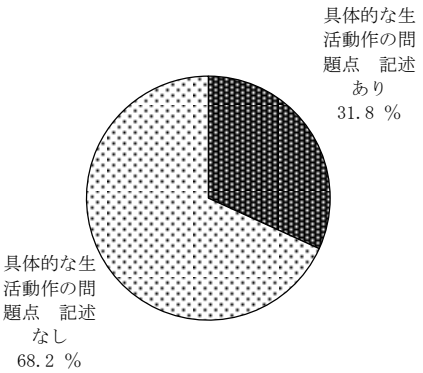
記述内容

- トイレの立ち座り、排泄時の姿勢の安定　8 件
- トイレまでの移動　3 件
- 衣類をよごす　2 件
- トイレ内をよごす　1 件
- 介護者の負担軽減　1 件
- 転倒予防　1 件
- 便座の冷え　1 件
- 将来的に室内の移動が難しくなることを想定し、寝室内にもトイレを準備　1 件

※1 記述に複数動作の記載がある場合は、1 動作 1 カウントとした。

（2） 入浴

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点　記述　あり	21	31.8
2	具体的な生活動作の問題点　記述　なし	45	68.2
	全体	66	100.0



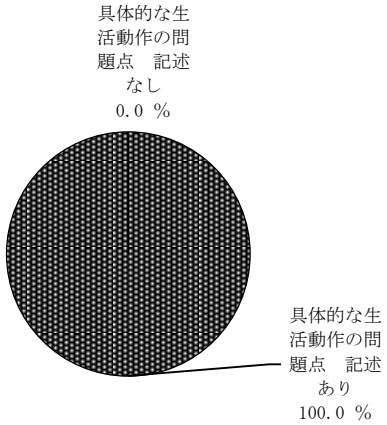
記述内容

- 浴槽のまたぎ　6 件
- 温熱環境（寒さ対策）　4 件
- 浴室への出入り　4 件
- 浴室内の立ち座り　4 件
- 転倒防止　3 件
- 浴室を広げて介護者の負担軽減 2 件
- 脱衣所での着脱のふらつき　2 件
- 浴室までの移動　1 件
- ドアの開閉　1 件

※1 記述に複数動作の記載がある場合は、1 動作 1 カウントとした。

（3） 外出

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点　記述　あり	3	100.0
2	具体的な生活動作の問題点　記述　なし	－	－
	全体	3	100.0

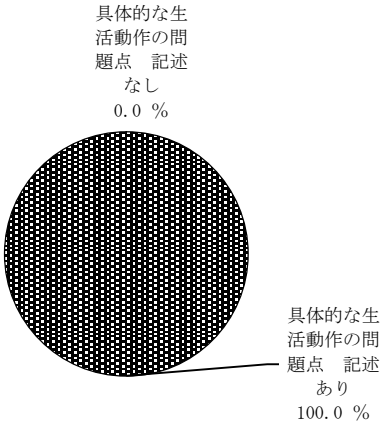


記述内容

- ポーチと外部への段差があり、歩行用具で下りようとすると極端な前傾となり危険でした。こちらも外部用手摺を設置し、一旦外部手摺でポーチから下りて、歩行用具を下ろしてから使うようにしました。

（4） その他の活動

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点　記述　あり	2	100.0
2	具体的な生活動作の問題点　記述　なし	－	－
	全体	2	100.0



記述内容

・　車いすで自由に家の中を動けるようになってない。洗面、キッチンの高さ。

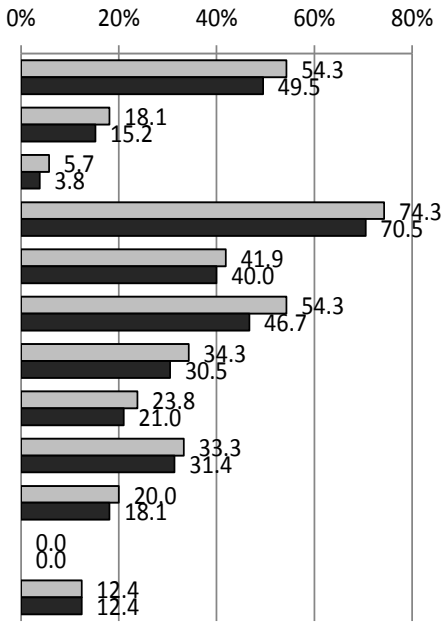
（13） 住宅改修前における目標設定について教えてください。（MA）

（14） 上記目標について、住宅改修後、達成した項目に○をつけてください。（MA）

住宅改修前における目標設定について、最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」（74.3%）、次いで「利用者の身体的負担の軽減」および「自立した生活の維持」（54.3%）であった。

また、目標設定に対して住宅改修後、達成した項目で最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」（70.5%）、次いで「自立した生活の維持」（49.5%）、「利用者の身体的負担の軽減」（46.7%）であった。

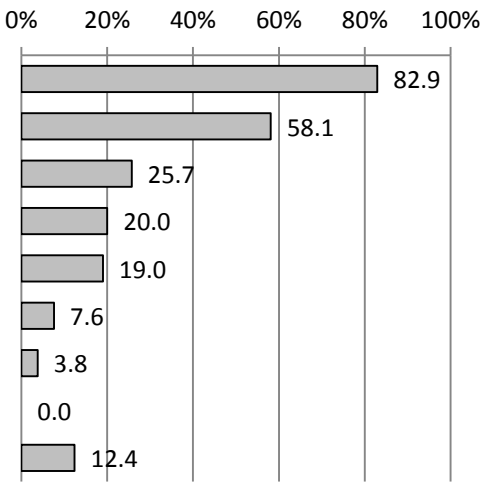
No	カテゴリ	目標設定	達成した項目	目標設定	達成した項目
		n	n	%	%
1	自立した生活の維持	57	52	54.3	49.5
2	できなかったことをできるようにする	19	16	18.1	15.2
3	他の介護サービス利用の減少	6	4	5.7	3.8
4	転倒等の防止、安全の確保	78	74	74.3	70.5
5	動作の容易性の確保	44	42	41.9	40.0
6	利用者の身体的負担の軽減	57	49	54.3	46.7
7	利用者の精神的負担の軽減、不安の緩和	36	32	34.3	30.5
8	利用者の生活意欲の向上	25	22	23.8	21.0
9	介護者の身体的負担の軽減	35	33	33.3	31.4
10	介護者の精神的負担の軽減	21	19	20.0	18.1
11	その他	－	－	－	－
	無回答	13	13	12.4	12.4
	全体	105	105	100.0	100.0



(15) 住宅改修項目について教えてください。(MA)

住宅改修項目で最も多いのは、「手すりの取付け」(82.9%)、「段差の解消」(58.1%)、「引き戸等への扉の取替え」(25.7%)であった。項目数では「3 項目以上」が最も多く 34.3%、次いで「2 項目」が 32.4%であった。

No	カテゴリ	n	%
1	手すりの取付け	87	82.9
2	段差の解消	61	58.1
3	引き戸等への扉の取替え	27	25.7
4	便器の取替え	21	20.0
5	滑り防止等のための床材の変更	20	19.0
6	その他 1	8	7.6
7	その他 2	4	3.8
8	その他 3	−	−
	無回答	13	12.4
	全体	105	100.0

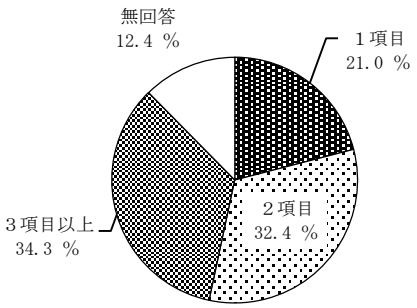


その他(自由記述)

- 浴室改修 2 件
- ユニットバス設置 1 件
- 宅内の温熱環境の改善 4 件
- 浴漕のまたぎを浅く変更 1 件
- 台所の改修 1 件
- 移動のコンパクト化 1 件

回答した項目数

No	カテゴリ	n	%
1	1項目	22	21.0
2	2項目	34	32.4
3	3項目以上	36	34.3
	無回答	13	12.4
	全体	105	100.0



（16） 住宅改修費について教えてください。おおよその金額で結構です。（実数）

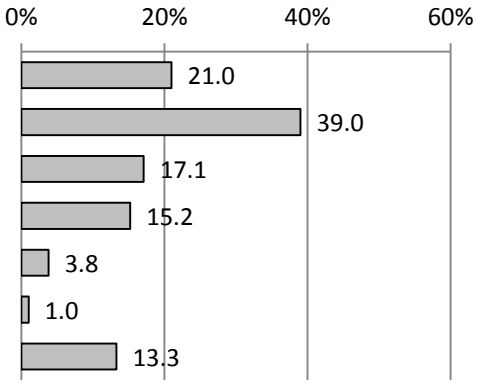
住宅改修費用は、平均 175.5 万円であった。

合計	14,738
平均	175.5
分散（n−1）	138,037.03
標準偏差	371.53
最大値	2,200
最小値	4
無回答	21
全体	105

（17） 介護保険・助成金の利用について教えてください。（MA）

住宅改修に関する介護保険・助成金の利用について、最も多いのは「一部介護保険を利用」（39.0％）、次いで「全て自費」（21.0％）、「全額介護保険を利用」（17.1％）であった。

No	カテゴリ	n	%
1	全て自費	22	21.0
2	一部介護保険を利用	41	39.0
3	全額介護保険を利用	18	17.1
4	一部自治体の助成金を利用	16	15.2
5	全額自治体の助成金を利用	4	3.8
6	その他	1	1.0
	無回答	14	13.3
	全体	105	100.0



(18) 住宅改修に併せて、福祉用具導入(貸与・販売含む)を実施しましたか。

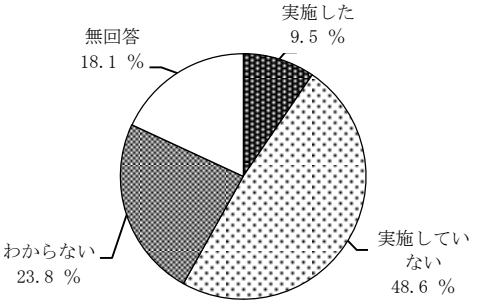
「実施した」場合は a～c の該当項目に○をつけてください。

住宅改修に併せて福祉用具導入を「実施した」は 9.5%、「実施していない」は 48.6%であった。

「実施した」場合の該当項目は、「車いす」30.0%、「特殊寝台」10.0%であった。

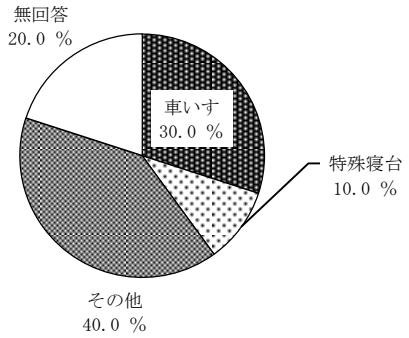
(SA)

No	カテゴリ	n	%
1	実施した	10	9.5
2	実施していない	51	48.6
3	わからない	25	23.8
	無回答	19	18.1
	全体	105	100.0



(実施した場合の該当項目 SA)

No	カテゴリ	n	%
1	車いす	3	30.0
2	特殊寝台	1	10.0
3	その他	4	40.0
	無回答	2	20.0
	全体	10	100.0



その他(自由記述)

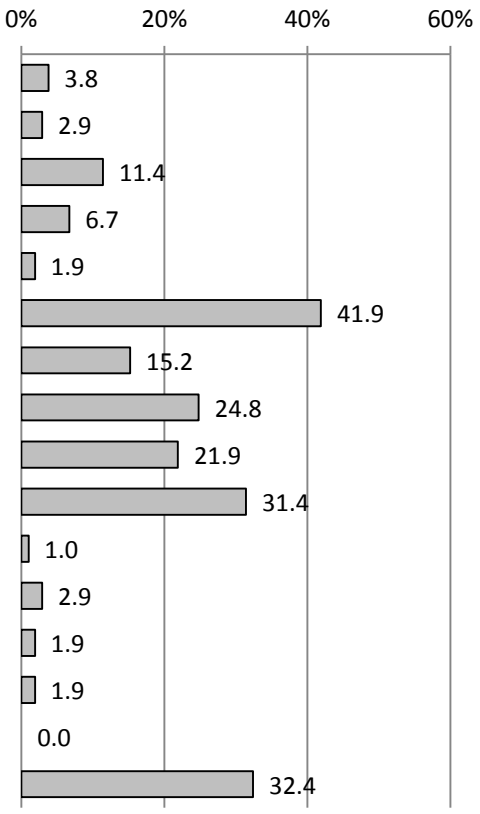
- 浴槽台　2 件
- 浴室椅子　1 件
- 補高便座付ウォシュレット　1 件
- 段差昇降機　1 件

4.　住宅改修後の状況確認などについて伺います。

(19)　住宅改修後、設問 7 でお答え頂いた利用者の状態で変化(改善)があった項目を教えてください。(MA)

住宅改修後の利用者の状態変化(改善)について、最も多いのは「屋内歩行」(41.9%)、次いで「入浴」(31.4%)、「移動」(24.8%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	寝返り	4	3.8
2	起き上がり	3	2.9
3	立ち上がり	12	11.4
4	移乗	7	6.7
5	座位	2	1.9
6	屋内歩行	44	41.9
7	屋外歩行	16	15.2
8	移動	26	24.8
9	排泄	23	21.9
10	入浴	33	31.4
11	食事	1	1.0
12	更衣	3	2.9
13	意思の伝達	2	1.9
14	視覚・聴覚	2	1.9
15	その他	–	–
	無回答	34	32.4
	全体	105	100.0



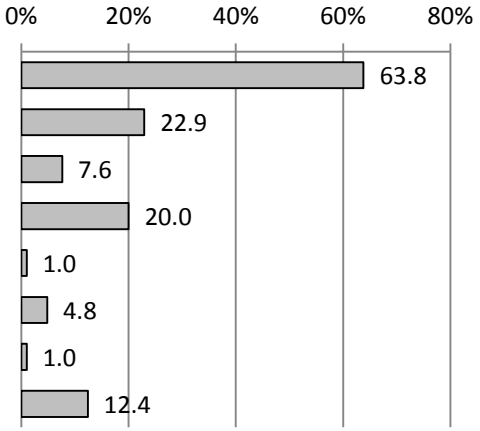
その他(自由記述)

・　―

(20) 住宅改修後、住宅事業者による状況確認は、どのように行いましたか。(MA)

住宅改修後の住宅事業者による状況確認について、最も多いのは「訪問による本人の動作の試行確認」(63.8%)、「訪問による本人の動作の試行確認」(22.9%)、「ケアマネジャーからの聞き取り(報告)」(20.0%)、であった。

No	カテゴリ	n	%
1	訪問による本人・家族からの聞き取り	67	63.8
2	訪問による本人の動作の試行確認	24	22.9
3	電話等による本人・家族からの聞き取り	8	7.6
4	ケアマネジャーからの聞き取り(報告)	21	20.0
5	福祉用具貸与事業者・住宅改修事業者からの聞き取り(報告)	1	1.0
6	訪問介護・訪問看護の担当者からの聞き取り(報告)	5	4.8
7	その他	1	1.0
	無回答	13	12.4
	全体	105	100.0

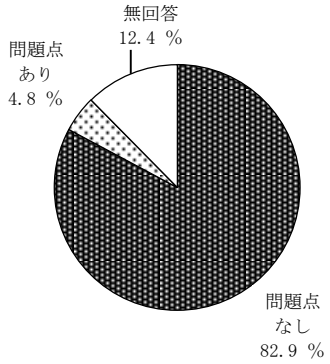


(21) 住宅改修後、問題点はありましたか。「問題点あり」の場合は、その対処法について教えてください。

宅改修後の問題点は、「問題点なし」82.9%、「問題点あり」4.8%であった。

(SA)

No	カテゴリ	n	%
1	問題点　なし	87	82.9
2	問題点　あり	5	4.8
	無回答	13	12.4
	全体	105	100.0



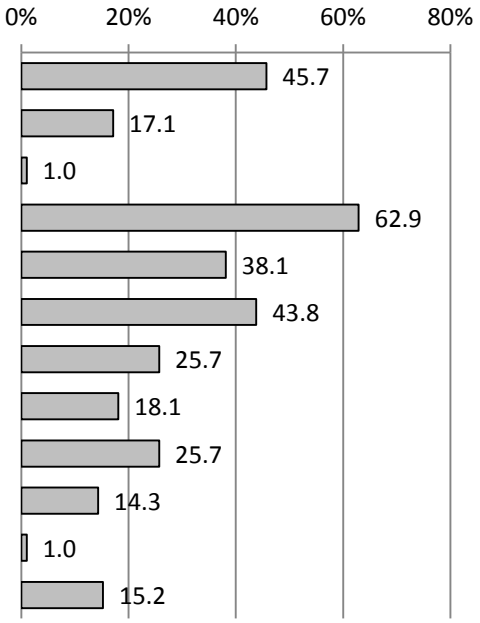
問題点あり(自由記述)

- ケアマネジャーが現地を見る回数がなかった。リフォームはじめに来てほしかった。電話だけのやり取りでよくわからなかった。
- 改修直後にお亡くなりになり、そのタイミングについて、考えさせられました。
- 改修後間もなく、入院され、改修のタイミングの悪さを感じました。

(22) 住宅改修後の利用者本人・家族の評価コメントについて教えてください。(MA)

住宅改修後の利用者本人・家族の評価コメントについて、最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(62.9%)、「自立した生活の維持」(45.7%)、「利用者の身体的負担の軽減」(43.8%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	自立した生活の維持	48	45.7
2	できなかったことをできるようにする	18	17.1
3	他の介護サービス利用の減少	1	1.0
4	転倒等の防止、安全の確保	66	62.9
5	動作の容易性の確保	40	38.1
6	利用者の身体的負担の軽減	46	43.8
7	利用者の精神的負担の軽減、不安の緩和	27	25.7
8	利用者の生活意欲の向上	19	18.1
9	介護者の身体的負担の軽減	27	25.7
10	介護者の精神的負担の軽減	15	14.3
11	その他	1	1.0
	無回答	16	15.2
	全体	105	100.0



その他(自由記述)

・ ―

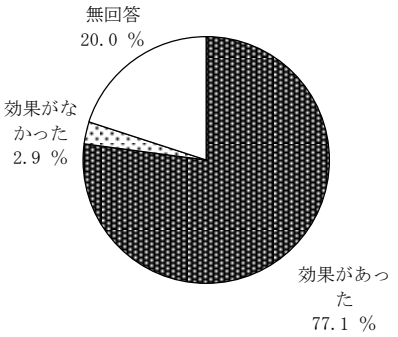
5.　住宅改修後の支援方法について伺います。

(23)　本事例で自立支援の効果はありましたか。その要因として考えられることをお書きください。

自立支援の効果について、「効果があった」は 77.1%、「効果がなかった」は 2.9%であった。

(SA)

No	カテゴリ	n	%
1	効果があった	81	77.1
2	効果がなかった	3	2.9
	無回答	21	20.0
	全体	105	100.0



自立支援の効果があった要因として考えられること

- 温熱環境の改善やバリアリー化は住まい手の活動を活発化させ、身体にとってよい影響があったと感じた。
- 段差解消:たまにつまずくとの事でしたがつまずく原因を取りのぞくことができたと考えられる。
- 転倒防止。動作の安易性の確保。利用者や家族の不安の軽減。
- 転倒の危険が少なくなった事により不安が軽減された。
- 手摺設置前はあまり2階に行かなかったが、手摺を利用して行く事が多くなった。安心出来るので。
- 本人及び介護者にとって負担は軽減された。安全面確保することにより利用者の行動範囲拡大でき、行動しようという気持ちもてたと思う。
- 入浴はプライベートで心身をいやす場所。安全に気持ち良く入浴できるように改善された。寒さ対策等も効果あり。
- 介護者の入浴介助の不安が解消された。本人が使用する仕様部(手すり・水栓金具・シャワーなど)の改喜。
- 必要な場所に適切な手すりを取付る事によって本人の負担が軽減出来た。
- 外風呂を内風呂に変更し、キッチンリビングをコンパクト化、生活上の温度変化を少くなくした。
- 車いすを利用しながら、その他の動作は自立しているため、住宅改修前の状況では思うにまかせなかった事が、改修後は容易になったため、身体面及び精神面での負担軽減となった。

(24) 本事例で、福祉用具導入もしくは住宅改修に関わった人はどなたですか。(関わった人すべてに○を付けてください。そのうち、主担当者1人に◎を付けてください)。

住宅改修に関わった人について、最も多いのは「ケアマネジャー」(55.2%)、次いで「建築施工者」(50.5%)、「建築士」(38.1%)であった。主担当は「建築施工者」11.4%であった。

関与した職種数は、「3 職種」が最も多く 45.7%、次いで「2 職種」23.8%であった。

関わった人(MA)

No	カテゴリ	n	%
1	ケアマネジャー	58	55.2
2	福祉用具専門相談員	8	7.6
3	建築士	40	38.1
4	建築施工者	53	50.5
5	理学療法士・作業療法士	2	1.9
6	その他	13	12.4
	無回答	12	11.4
	全体	105	100.0

主担当者(SA)

No	カテゴリ	n	%
1	ケアマネジャー	8	7.6
2	福祉用具専門相談員	1	1.0
3	建築士	7	6.7
4	建築施工者	12	11.4
5	理学療法士・作業療法士	−	−
6	その他	7	6.7
	無回答	70	66.7
	全体	105	100.0

主担当を含む関わった職種の数

No	カテゴリ	n	%
1	1職種	35	33.3
2	2職種	37	35.2
3	3職種	20	19.0
4	4職種以上	1	1.0
	無回答	12	11.4
	全体	105	100.0

その他(自由記述)

- 福祉住環境コーディネーター　3 件
- 福祉用具貸与事業所　2 件
- 増改築相談員　2 件
- インテリアコーディネーター　1 件
- 営業、アドバイザー　1 件

(25) 本事例を通して、見つかった課題があれば教えてください。(自由記述)

① ケアマネジャーについて

・ ケアマネの負担が大きく見える。

・ ケアマネジャーとのアポ取りがうまくいかなかった。

② 状況確認について

・ ひとつひとつ小さな事をきちんと確認する。

・ 家族のありかた、考えかた、住まいかたが多様化し、一件、一件の細かいヒアリングが必要。

③ その他

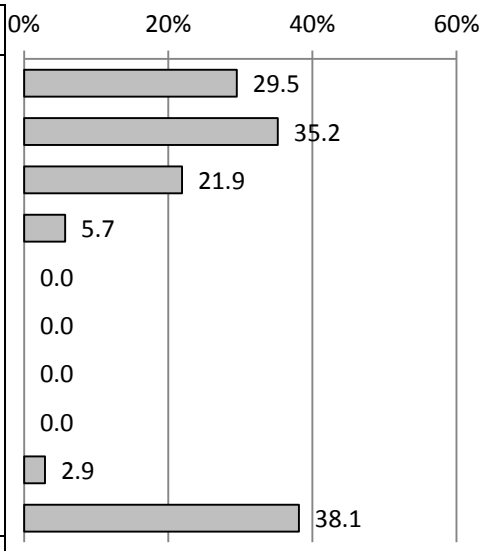
・ 本人重視か、介護する方を重視するか。本人が入院中の場合、退院に合わせての工事希望があるが、この場合、医者の意見書があるものの、実際はどうかという不安がある。

・ 同居の家族の生活にジャマにならない、手摺、スロープ、の設置。

・ ご高齢の方たちは、多少の不便さがあっても我慢されてしまうので、まわりの方たちが保険のことや手続などに手をかしてあげることができれば、もっと安心して自立した生活がおくれるようなるのではと思います。

・ 強度をもたすために金属製の手摺を取付したが冬期手をふれる部分がつめたくなる事がしんぱい。

・ 外部手摺の取付けは、コスト高になる。

※ 回答者の所持資格

No	カテゴリ	n	%
1	建築士	31	29.5
2	増改築相談員	37	35.2
3	福祉住環境コーディネーター	23	21.9
4	福祉用具専門相談員	6	5.7
5	福祉用具プランナー	−	−
6	理学療法士	−	−
7	作業療法士	−	−
8	ケアマネジャー	−	−
9	その他	3	2.9
	無回答	40	38.1
	全体	105	100.0